

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 喜多 悦子 殿

2014 年度日本財団ホスピスナース支部活動支援

活 動 報 告 書

活動課題

横浜市南区における 訪問看護ステーションを拠点とした
エンド・オブ・ライフケアの普及とネットワーク強化への取り組み

一般社団法人南区医師会 南区医師会訪問看護ステーション

緩和ケア認定看護師 平野和恵

I 活動の目的

- 1) 活動地域におけるエンド・オブ・ライフケアの質の向上をめざす
- 2) エンド・オブ・ライフケアに関心を持つナースや多職種間の組織を越えた協働

II 活動の内容・実施経過

1) 活動の内容

申請者の所属施設主催による、エンド・オブ・ライフケア研修会の開催
所属施設の責任者に定例研修会の時間の活用の上承を得られたため、可能な限り一人でも多くのスタッフが、質が保証されているエンド・オブ・ライフケアに関する研修会を地元（自施設）で受講できることも目的の一つとした。
また組織を越えて、将来的に質の高いエンド・オブ・ライフケアが地域で包括的に提供できるように、周辺地域の医療保健福祉関係者にも研修会を事前周知し、関心のある施設外の参加希望者も参加できる環境を整えた。

2) 実施経過

2014年7月 開催責任者（管理者）と詳細打ち合わせ 講師陣内定
2014年10月 講師会議開催 外部講師との開催目的の共有
2014年10月 研修会 PR 開始
2014年10月 印刷会社見積もり
2014年12月 第1回研修会開催 講師会議開催
2015年1月 第2回研修会開催
2015年2月 第3回研修会開催

III 活動の成果

1) 開催プログラム・開催案内チラシ（巻末参照）

2) 各回参加者数

第1回 21名

第2回 25名

第3回 24名

延べ人数 44名

全3回を受講した参加者13名（内部12名 外部1名）に、修了証を発行した。

3) 研修会開催に至るまでの準備

各講師は別施設に所属しているため、開催会議を合計4回（うち2回は実施責任者と開催責任者で実施）開催し、当日に備えた。さらなる情報共有・意見交換は、電話やメールの他に、無料のクラウド型ネットワーク（サイボウズlive®）を活用した。通常のメールのやりとりよりも、経過が継時的に確認することができ、また各講師の使用予定原稿や資料を他の講師が事前に確認でき、円滑なプログラム遂行に役立てた。

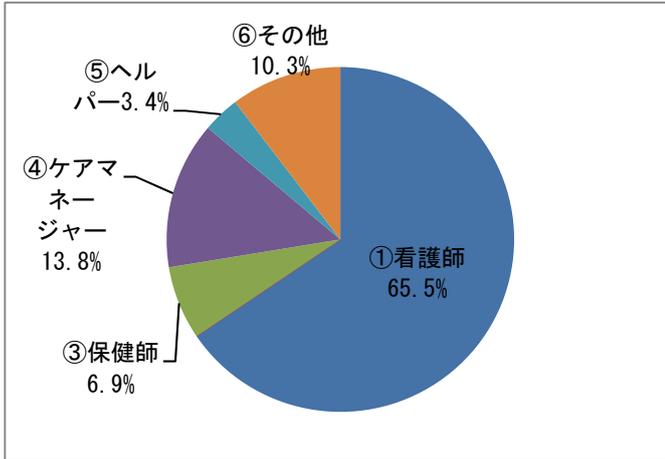
4) アンケート結果 (第3回時に実施)

2014年度 笹川記念保健協力財団助成事業 南区医師会訪問看護ステーション開設20周年記念

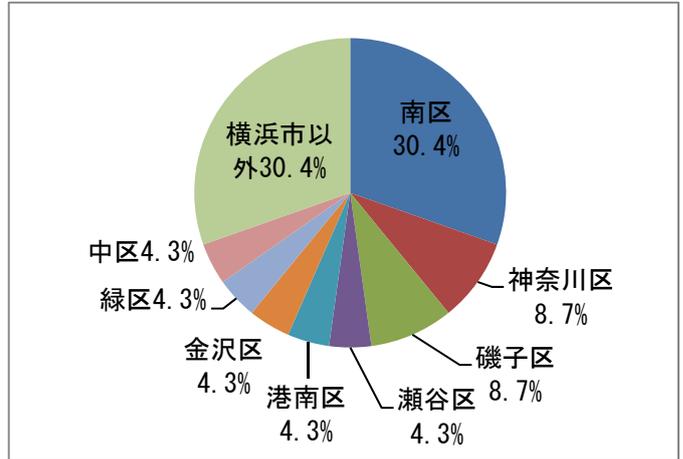
『エンド・オブ・ライフケア研修会』アンケート結果 (配布数24 回収数 n=23)

Q1 あなたの取得資格は何ですか? 【複数回答可】

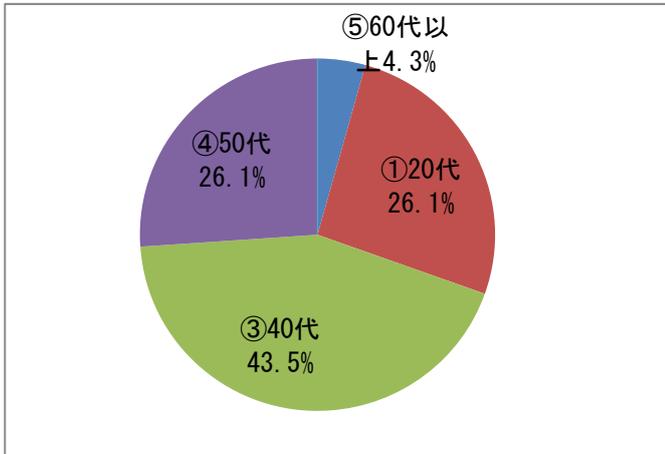
(n=29)



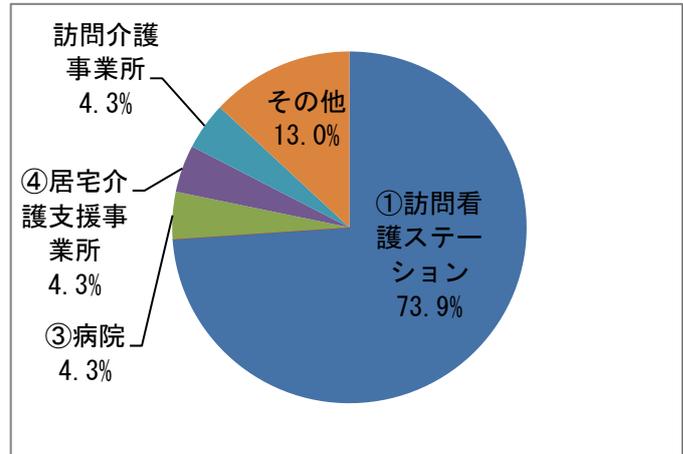
Q2 お住まいの地域はどこですか? (n=23)



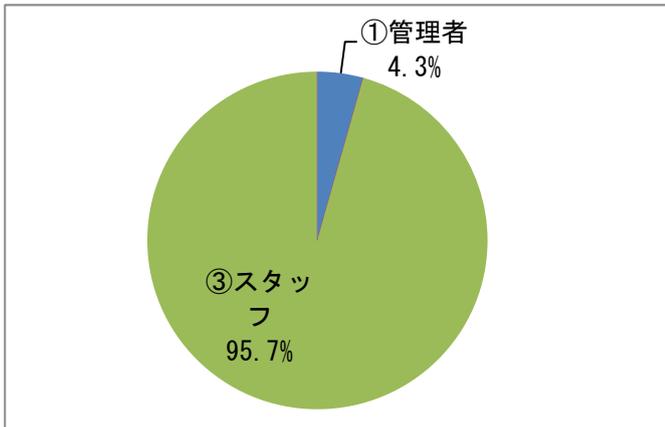
Q3 あなたの年代は次のうちどれですか? (n=23)



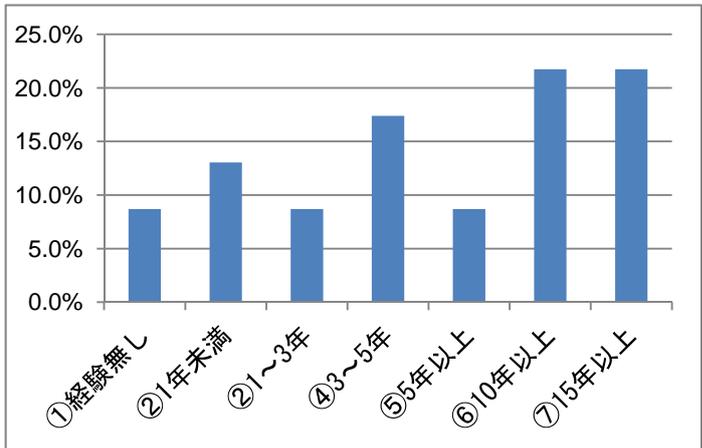
Q4 あなたの所属施設はどれですか? (n=23)



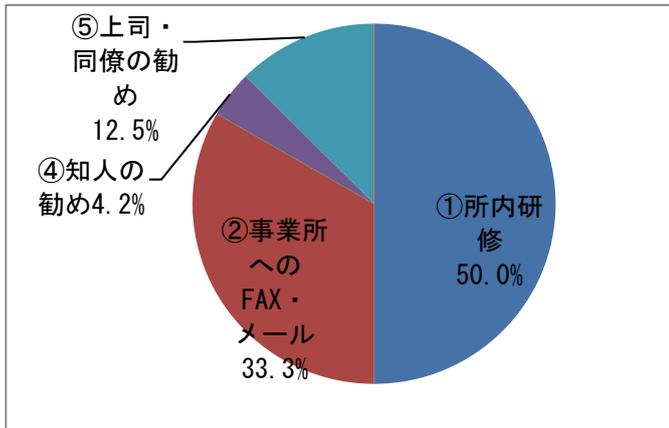
Q5 あなたの職位はどれですか? (n=23)



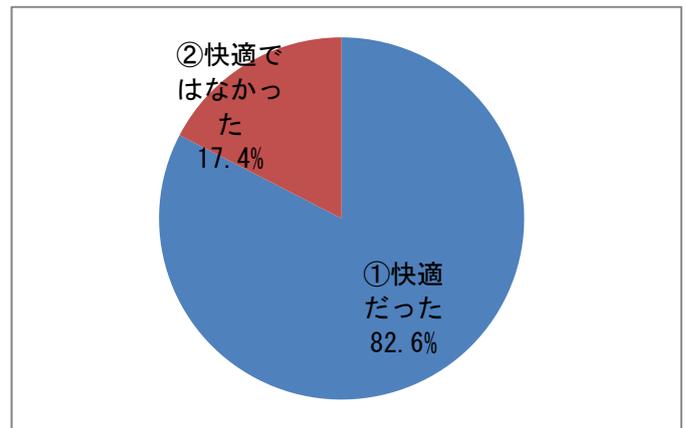
Q6 訪問看護の経験年数はどれですか? (n=23)



Q7 この研修を何で知りましたか？【複数回答可】
(n=24)



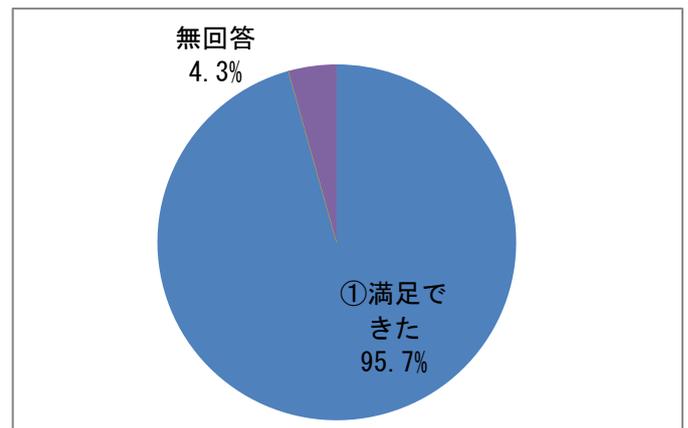
Q8 研修会場について (n=23)



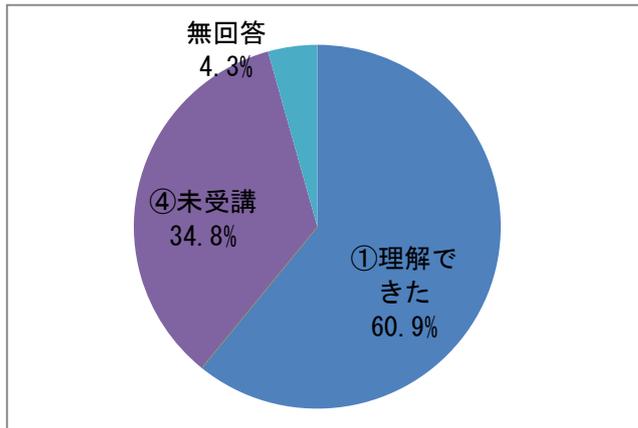
Q9 保育を利用された方に伺います。
お子さんをあずけるにあたり、気になることはありませんでしたか？

なかった 2名
あった 0名

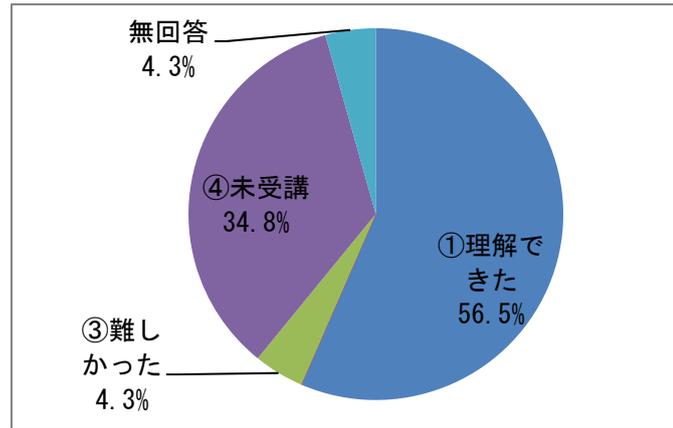
Q10 今回の研修会は、全体を通していかがでしたか？ (n=23)



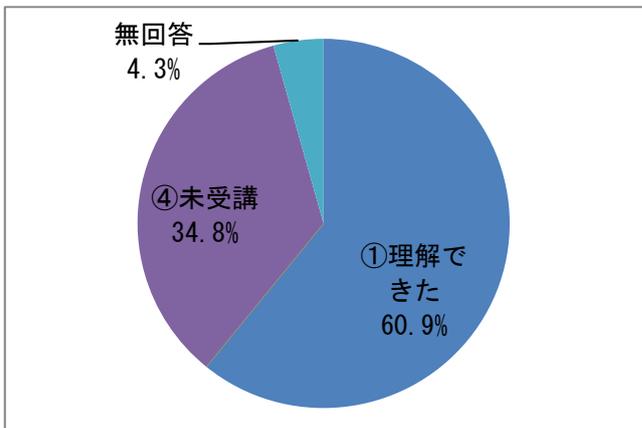
Q11 講義について M1 総論 (n=23)



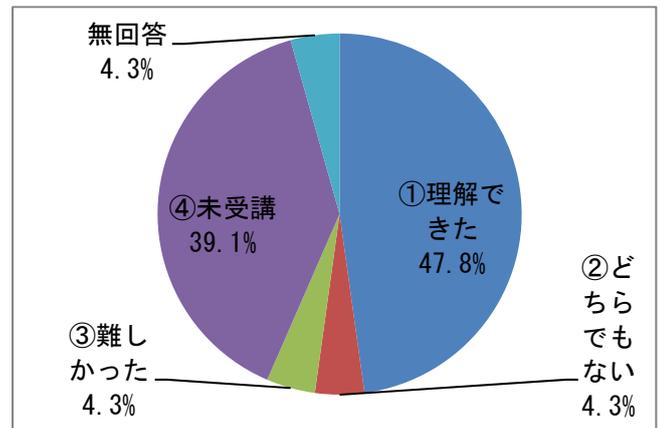
M2 疼痛マネジメント (n=23)



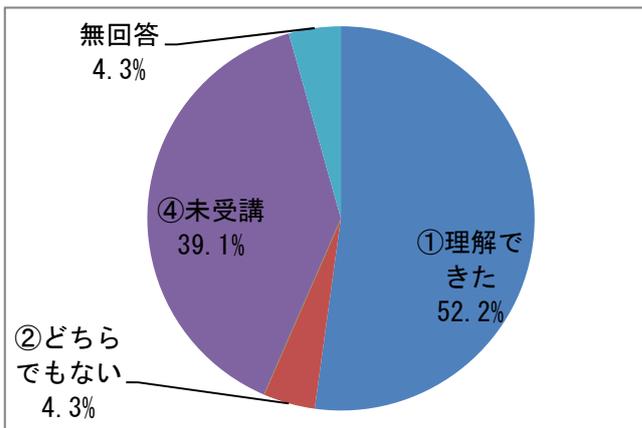
M3 症状マネジメント (n=23)



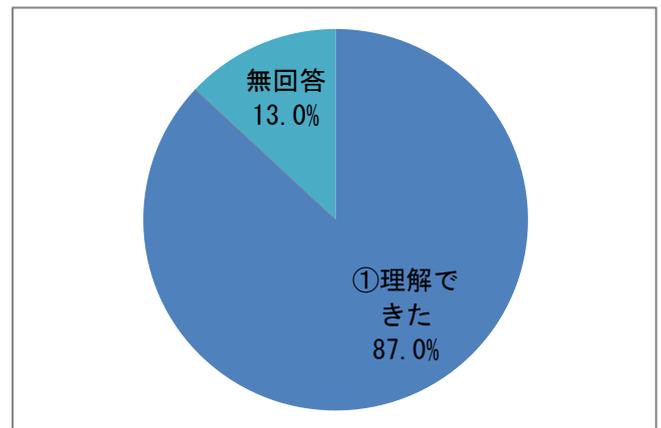
M4 倫理 (n=23)



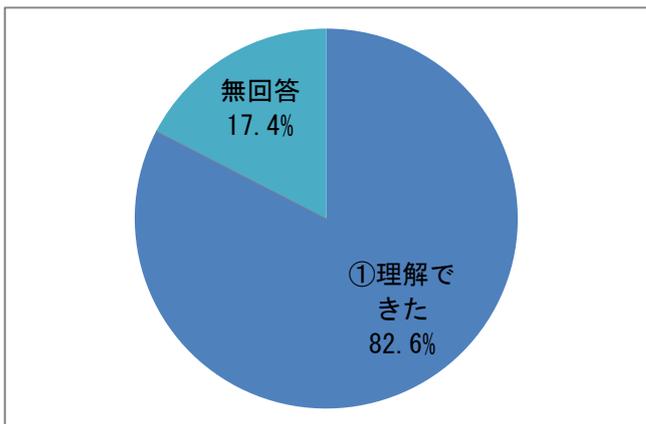
M5 文化 (n=23)



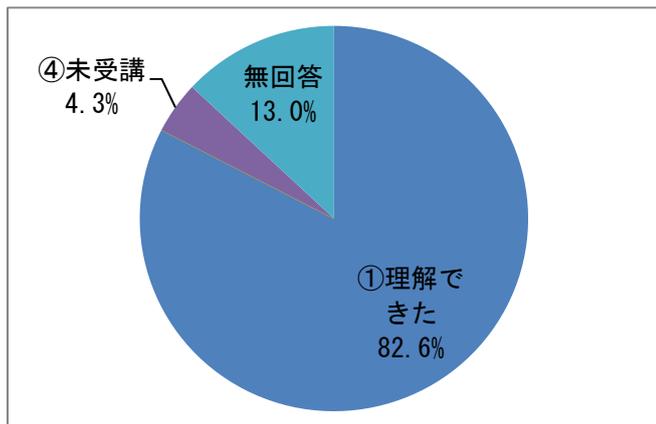
M6 コミュニケーション (n=23)



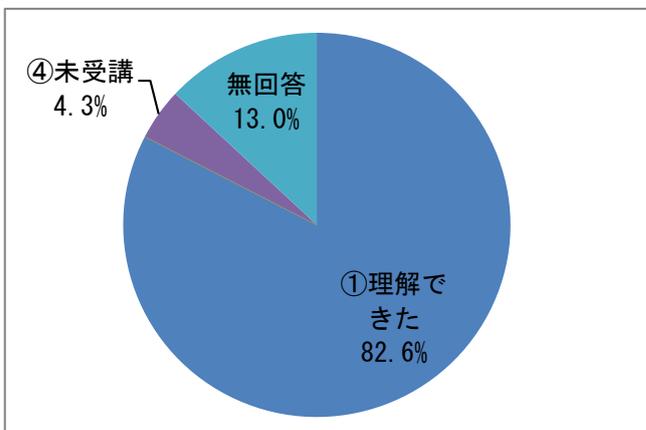
M7 喪失・死別・悲嘆 (n=23)



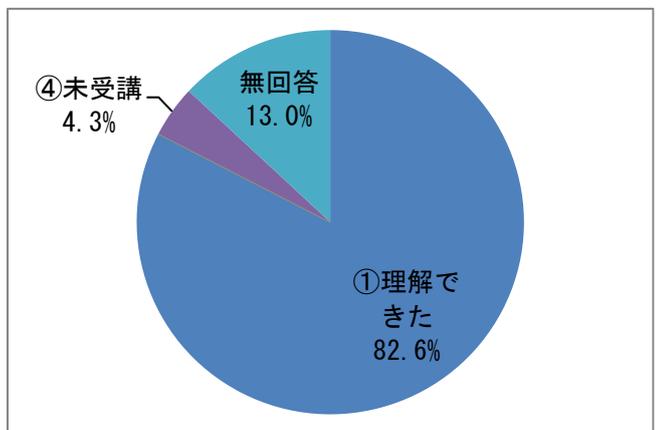
M8 臨死期 (n=23)



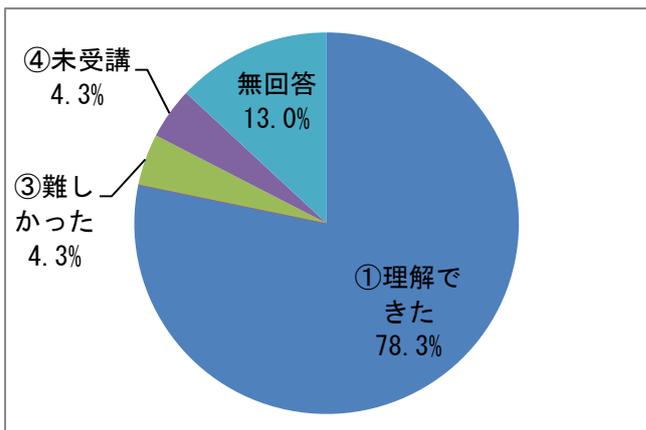
M9 高齢者 (n=23)



特別講義 (n=23)



M10 まとめ (n=23)



感想・意見等（自由記載）

・他のステーションや施設の方々などに関わることができ、有意義だった。知らない人・初めての方も話しやすい状況を相手の方がしてくれて、コミュニケーションスキルがすばらしく、見習いたいと思いました。（1）

・ケーススタディやロールプレイなどもあり、また講義の内容も分かりやすく参加してよかった。（2）

・事例やロールプレイをまじえて、普段自分が行っているコミュニケーションについて、ふりかえることができた。自分の不得意とするところを再確認した。明日からの訪問でコミュニケーション技術について、意識して実践していければと思いました。（5）

・重いテーマであったが、あまり落ち込まずに受講できてよかった。

事例検討は、症状・現状を皆で掘り下げることができ、自分では考えられない意見が聞けてよかった。ロールプレイでは、患者の気持ちを体験できてNsとしてどう接したらよいか考えさせられた。（7）

・講師のみなさん、どの方も歯切れの良い話し方で、明瞭で分かりやすかったです。資料も細かく理解しやすいです。短い時間でしたが、「話す」「聴く」ということの難しさを改めて考えさせられました。（8）

・講義内容で聞き慣れないようなこともあり、十分理解できたかは？ですが、普段学べないことを学べたので、良かったです。ロールプレイは難しかったです。（10）

・充実した内容であり、とてもよい研修で参加できて良かったです。症状や疼痛コントロール等の部分については、復習をしっかり行いたいと思います。ありがとうございました。

ロールプレイの中で、緩和ケアか在宅療養かを聞くところまでできたが、その後、今できる事を何か家族に残してあげられるような声かけを行えばよかったという点に気づくことができました。（11）

・ロールプレイを行う事で普段他の方がどのように利用者さんに応対しているのか分かったのと、自分の対応を人から見てもらうことができ、反省や確認ができた。訪問看護の経験が浅い自分にとって、とても役にたった。（12）

・全部の講義に出られたらよかったと思いました。平日はどうしても訪問があるので参加できませんでした。ロールプレイはとても勉強になりました。患者さんの役をする体験は初めてで、こんなこと思いながら利用者さんは私と話をしてくれているのかな、と思うことができました。（13）

・デスクケースカンファレンスというのを初めて知り、ぜひ行ってみたいと思いました。現在の施設では看取りをこれから始めていこうという試みで、皆不安が強いのですが、振り返る機会があれば次につなげていくことが出来ると思いました。在宅看護だからこそできることと感じました。（14）

・2月7日のみ参加しました。自分の仕事の中で今回の講義を生かしていけるよう、資料を再度勉強しなおして日々過ごしたいと思います。ロールプレイは初めての経験でした。難しい勉強方法ですが、よい体験になりました。（15）

・患者家族役をするのは、自分に有効でした。説明をさらにしていただいて、わかりやすく良かったです。

ケアマネさんヘルパーさんと一緒に学べる機会がこれからも大切だと思いますので、ゼ

ひ開催をお願いします。(16)

・看取りや緩和ケアにつなぐ日々の中で消耗し始めていました。チームの力はあっても自分の自信のなさをうめる有意義な勉強ができました。ロールプレイは初めてのロールプレイングでしたが、役に入り込みまた客観的にみることができるよう導いていただいたと思います。時間をおいて訪問に行ってまた参加したいです。(17)

・管理者の話がとても印象的でした。時代を感じつつ、看護の本質はしっかりと保ちながら、これからの南区について考えていきたいと思います。ロールプレイは時間配分や評価等のポイントなど、タイミングよく声をかけていただき、助けてもらいました。とてもよい研修で、病院スタッフもたくさん参加できるとよいなと感じました。(18)

・終末期をこれから迎える方について、いろいろな方面から学ぶことができました。コミュニケーションひとつにしてもいろいろなスキルがあり、今度は現場で意識しながら実践したいです。利用者さん、ご家族に心地良さを与えられるように、日々のケアを丁寧に行っていきたいです。(19)

・今日講義を受講できてよかったです。とても勉強になりました。自分の死生観、人の死生観、それぞれ違うからこそ、迷ったりこうしてあげられればと思ってしまうのだろうなと思いました。「みんなが今できるベストのことをした」そう言っていただいて、本当にホッとできました。ありがとうございます。(20)

・大変素晴らしい内容で参加できて非常によかったです。明日からまたがんばれる気がしました。ありがとうございました。ロールプレイは演じることは難しいが、大変勉強になりました。(21)

・ロールプレイは、自分のコミュニケーションの振り返り、他者のコミュニケーションの取り方で良い所を学べた。(22)

・いろいろな方を看取られた方達のエピソードも交えながら講義を聞くことができ、とても分かりやすく勉強になりました。実際のケアにさっそく活かせるように取り組みたいと思います。ありがとうございました。(23)

IV 今後の課題

1) 研修の効果（目的の達成状況）

アンケート結果より、受講生の満足度は高かったと考えられる。また本研修の効果は地域の中で経過や結果をみながら評価することも望ましい。アンケート結果の自由記載にもあったように、今回だけで終わらずに、今後も継続的に開催することも検討していきたい。

2) 参加者の確保

今回は当該地域初の ELNEC-J 開催の試みで、全 3 回のうち 2 回は平日午前中でもあったためか、初回の施設外参加者は 6 名であった。そこで 2 回目以降チラシも更新し、PR 範囲を広げた。初回・2 回目参加者からの口コミ等もあり、申込者数は回数を重ねるたびに増加した。しかし毎回無断キャンセルもあり、当日のグループ編成の変更を要したこともあった。受講料が無料ということ、また冬期の開催による体調不良の可能性も高くなるかもしれないが、直前の出席確認等も必要だったかもしれない。

また、本プログラムはもともと看護師対象のプログラムであるが、セラピストやケアマネジャー、訪問入浴・訪問介護員の参加もあった。内容に関して難しすぎた、という反応はなく、他組織、他職種 of 研修効果に好評の反応があった。いっぽうで受講性から意見からも難しい、看取り経験が少なくても参加できるか等の問い合わせもあったので、難解そう、経験を要する研修というイメージを改善することも今後は検討していきたい。

3) 講師及びファシリテーターの確保

本研修プログラムは特別な指導者研修を受講したものに限定して教授権限が与えられているもので、指導者リストから開催施設近隣に在籍する対象者に何人か依頼をしたが、快い返事が得られるまで時間と調整を要した。よって当初の予定より遠方の指導者に講師を依頼したが、講師間のチームワークは円滑で、そのことについて好意的な意見を下さった受講生もいた。本プログラムは講師陣と受講生の双方向の交流があつてこそ効果が得られるものであるため、結果はよかったものと評価している。

4) 保育サービス

看護師のキャリアの発達段階において、職業人女性としての成長期と育児期が重なることがある。看護師個人として参加したい研修等があつても、保育園が休園日だったり、核家族等で他の家族の協力が得られない場合は、研修を断念し、育児が優先となる。このように家族状況により参加したくても参加できない意欲のある看護師の学習支援もできるよう、管理者の協力も得て、ボランティアという形態で保育サービスを提供した。今回は全 3 回の研修会のうち第 3 回目（土曜日開催）に、2 名の看護師の研修より保育希望があり（5 歳女兒、1 歳女兒）実施できた。当初保育ボランティアは 1 名で担当す

定であったが、対象者の年齢が異なっていたので、2名（現役訪問看護師、ファシリテーター兼務）で対応した。事故等なく保育を終了し、保護者より感謝の言葉も得られ、保育ボランティアの意義はあったと考える。今後も土曜休日の研修等に保育のニーズは考えられるが、保育担当者の手配及び資質・環境安全面の確保等は課題の一つである。

5) 事務局、運営資金の確保、プログラム内容の検討

本研修会の運営プログラムに用いた「ELNEC-J」は、主に臨床看護師を対象としたエンド・オブ・ライフケアを系統的に学べる学習プログラムで、10モジュールを複数の講師が教授し、グループワークやロールプレイ参加型双方向型学習方法を多く取り入れている、よって通常の一方向講義形式の研修会に比べると、開催前の打ち合わせや必要物品の確認、会場の確保等、さまざま調整や準備が必要であった。アンケート結果から参加者の満足度は高く、今後も継続希望との意見も聞かれ、活動地域におけるエンド・オブ・ライフケアの質の向上に少なからず貢献したと考えられる。今回の試みを今後も地域で継続して開催していくためには、受講生の受講料一部負担や、今回のような外部支援団体等より資金面の支援を得ることが望まれる。一方で単独のステーションが継続的に事務局として開催することは、職員数の多い病院主催の研修等に比べると、担当者の負担になる可能性もある。今後は今回賛同を得た他施設の講師や参加者の所属する組織の協力も得ながら、地域を一つの組織体としてエンド・オブ・ライフケアの普及啓発を継続することが望まれる。

さらに今回のプログラムでは、既存のELNEC-Jに加え、開催施設の開設20周年記念事業に位置付けられ、開催責任者の特別講演も組み込むことができた。このことは、当該地域における訪問看護及びエンド・オブ・ライフ・ケアの歴史的経過や未来について、関係者それぞれの立場において考えるきっかけになったとも考えられる。今後も受講対象者を看護師に多職種に広げて、プログラムも様々な立場から関心をもてるような内容に検討していくことで、研修会をきっかけとして組織を越えた地域全体の協働の一助になると考えられる。

V 活動の成果の公表予定

- ・2015年度日本在宅看護学会（2015年11月 東京）

謝辞

本活動にご支援をいただきました、笹川記念保健医療協力財団、開催実施施設の管理者、講師・ファシリテーター、参加者の皆様に心から御礼申し上げます。

公益財団法人 笹川記念保健協力財団 助成事業

南区医師会訪問看護ステーション 開設20周年記念

エンド・オブ・ライフケア研修会～ELNEC-J in 横浜市南区～

<ねらい>横浜市南区のエンド・オブ・ライフケアを理解し、地域における看護師やセラピスト等の役割を学ぶ。学んだことが日々のケアや多職種連携に活かせることを理解できる。

開催地	開催日	会場
横浜	①2014年12月16日(火) 午前 ②2015年1月20日(火) 午前 ③2015年2月7日(土) 全日	南区医師会 大会議室 (横浜市南区宿町4-76-1)

●1日目：12月16日(火)

開始	終了	時間	内容	講師(敬称略)
9:00	9:10	10	受付	事務局・高砂 裕子
9:10	9:15	5	ご挨拶・スタッフ紹介	
9:15	9:30	15	アイスブレイキング	平野
9:30	10:10	40	M1: エンド・オブ・ライフ・ケアにおける看護	平野
10:10	10:20	10	休憩	
10:20	11:20	60	M2: 痛みのマネジメント	浦崎
11:20	12:00	40	M3: 症状マネジメント	平野

●2日目：1月20日(火)

開始	終了	時間	内容	講師
9:00	9:10	10	受付	
9:10	10:10	60	M2&M3: ケーススタディ	浦崎他
10:10	10:15	5	休憩	
10:15	11:00	45	M4: エンド・オブ・ライフ・ケアにおける倫理的問題	小川
11:00	11:10	10	休憩	
11:10	11:50	40	M5: エンド・オブ・ライフ・ケアにおける文化への配慮	平野
11:50	12:00	10	まとめ、アンケート記入	事務局

●3日目：2月7日(土)

開始	終了	時間	内容	講師
9:15	9:30	15	受付・オリエンテーション	事務局
9:30	10:00	30	M6: コミュニケーション	佐々木
10:00	11:00	60	M6: ロールプレイ	佐々木他
11:00	11:10	10	休憩	
11:10	11:55	45	M7: 喪失・死別・悲嘆	小川
11:55	12:55	60	昼食・休憩	
12:55	13:45	50	M8: 臨死期のケア	河村
13:45	13:55	10	休憩	
13:55	14:45	50	M9: 高齢者のエンド・オブ・ライフケア	奥村
14:45	14:55	10	休憩	
14:55	15:40	45	特別講演: 横浜市南区のエンド・オブ・ライフケア	高砂 裕子
15:40	16:10	30	M10: 質の高いエンド・オブ・ライフケアの達成	平野 他
16:10	16:20	10	修了式	事務局
16:20	16:30	10	まとめ・アンケート記入	平野 他

※講師・タイムスケジュールは変更する場合があります。

～菅川記念保健協会の対田助成 南区医師会訪問看護ステーション 開設20周年記念～

エンド・オブ・ライフケア研修会

～ELNEC-J in 横浜市南区～



参加費 無料

開催日時

- ① 2014年**12月16日**(火) 9:00～12:00
- ② 2015年 **1月20日**(火) 9:00～12:00
- ③ 2015年 **2月7日**(土) 9:00～16:30 (この日は南区外になります)

会場 **南区医師会訪問看護ステーション**
■横浜市営地下鉄 扇田駅 徒歩3分 (横浜市南区宿町4-76-1 南区休日急患診療所内)

- 対象：在宅緩和ケアに関心がある看護師、セラピスト等医療関係者
- 定員：40名 ●申込み方法は裏面参照

*保育が必要なお子さんがいる方：研修会の催、看護師等がお世話しします。申し込み時にご相談下さい。

エンド・オブ・ライフケア研修会について

病気や疾患に関わらず、人が人生を終える時期に必要とされる質の高いケアをエンド・オブ・ライフケアといいます。本研修会では、エンド・オブ・ライフケアを系統的に学べる看護師教育プログラム (ELNEC-J) を用いて、看護師等メンバーの役割やチームケアの質を向上させる方法を事例検討やロールプレイ等を用いて学びます。全回参加の方には修了証を発行します。1回のみでの参加も可能です。皆様のご参加をお待ちしています。

主催：一般社団法人南区医師会 南区医師会訪問看護ステーション

笹川記念保健協会の助成
-南区医師会訪問看護ステーション 開設20周年記念-

エンド・オブ・ライフケア研修会

～ELNEC-J in 横浜市南区～



参加費 無料

開催日時

① 2015年1月20日(火) 9:00～12:00(事例検討と講義)

② 2015年2月7日(土) 9:00～16:30(ロールプレイと講義)

※2月7日(土)は研修会終了後情報交換会があります(無料)

会場 南区医師会訪問看護ステーション
■横浜市営地下鉄 鶴田駅 徒歩3分 (横浜市南区宿町4-76-1 南区休日急患診療所内)

- 対象：在宅緩和ケアに関心がある看護師・セラピスト等医療保健福祉関係者
- 定員：40名 ●申込み方法は裏面参照

*保育が必要なお子さんがいる方：研修会の間、看護師等がお世話いたします。申し込み時にご相談下さい。

エンド・オブ・ライフケア研修会について

病気や疾患に関わらず、人が人生を終える時期に必要なとされる質の高いケアをエンド・オブ・ライフケアとします。本研修会は、エンド・オブ・ライフケアを系統的に学べる看護師教育プログラム (ELNEC-J) を用いて、多職種チームメンバーの役割やチームケアの質を向上させる方策をロールプレイ等を用いて学びます。全国の在宅ケアの現場で活躍する看護師の講義を受講できる貴重な機会です。皆様の参加をお待ちしています。

 Sasakawa Memorial Health Foundation
主催：一般社団法人南区医師会 南区医師会訪問看護ステーション